



260202

第7回マチミチ会議

「まちが変わるウォークブルのデザインとは」

今、地域で何をデザインするのか

株式会社 上條・福島都市設計事務所共同主宰
九州大学大学院比較社会文化研究院 学術研究者

福島秀哉

自己紹介

福島 秀哉 博士（工学）／技術士（建設部門）

専門：土木デザイン／景観工学／都市・地域デザイン／まちづくり

1981年生まれ。岩手県盛岡市出身。

- 2006. 3 東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻 修士課程 修了
- 2006. 4 - 2010. 3 小野寺康都市設計事務所
- 2010. 3 - 2012. 1 (独) 土木研究所寒地土木研究所
- 2012. 4 - 2022. 3 東京大学大学院工学系研究科 景観研究室 助教
- 2020. 3 - 株式会社 上條・福島都市設計事務所 (2022.4ー共同主宰)
- 2024. 4 - 九州大学大学院比較社会文化研究院 学術研究者



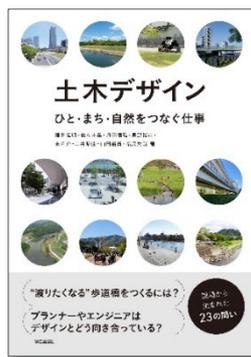
fukushima@kfa.co.jp
<https://www.kfa.co.jp>



群馬県 道路再整備 / 北海道 行政支援 / 岩手県 東日本大震災復興事業 / 愛媛県 中心市街地再生

公共空間デザイン (小野寺康都市設計事務所) / 行政支援／学術研究 (寒地土木研究所) / 東日本大震災復興支援／地域戦略立案／学術研究／教育 (東京大学大学院) / 地域戦略立案／公共空間デザイン／学術研究 (上條・福島都市設計事務所／九州大学大学院)

- 主な著書**
- 『ムラナカの公共デザイン』 (東京大学出版会2024)
 - 『コミュニティのかたちと復興区画整理』 (鹿島出版会2023)
 - 『土木デザイン』 (学芸出版2022)
 - 『まちを再生する公共デザイン』 (学芸出版2019) 他





歩きたくなる都市づくりをしない都市圏は、おそらく経済発展の機会を失うことになるだろう。クリエイティブクラスは、**生活環境において多様な選択肢がある都市圏**に引き寄せられるだろう。(Leinberger)

これまでの常識では、経済を強化することがまず行うべきことであり、人口増加や生活の質の向上はその後で起こると考えられていた。しかし今ではその逆で、**生活の質を高めることが、新しい住民や仕事を呼び込むための最初のステップ**と考えられるようになった。

ウォーカブルシティ：

現在の延長線上の都市の改善ではなく、**ライフスタイルとまちを変えていく取組み**

→ **デザイン**（意匠や化粧という狭義）の話だけではない

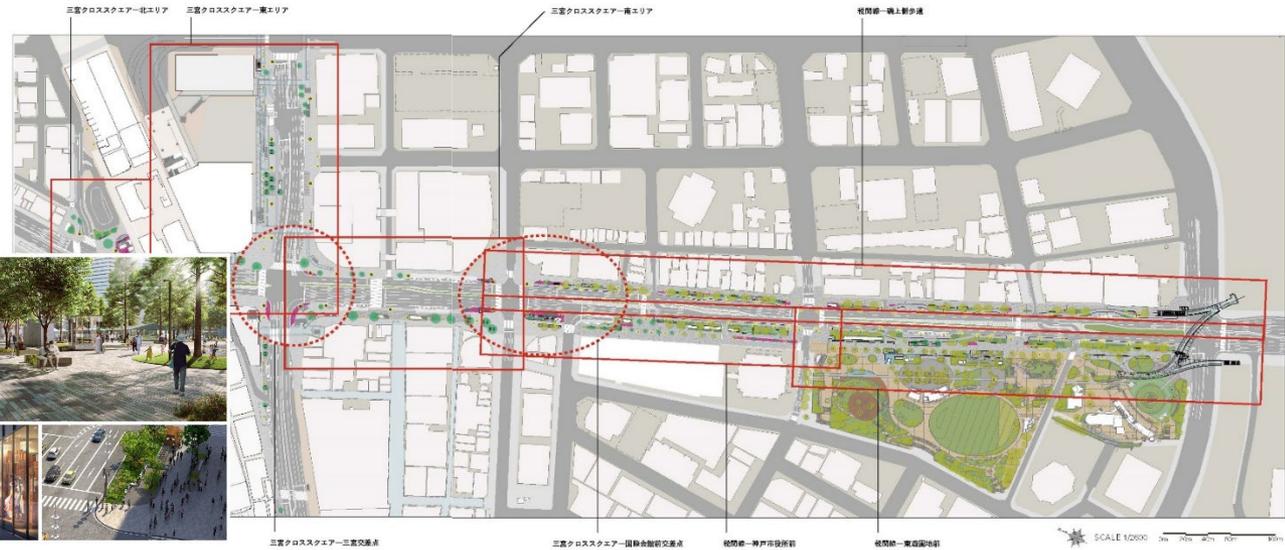
→ 一方（広義の）**“デザイン”**はライフスタイルを変える人の認識や行動変容に影響

現代のまちづくりにおけるビジョンと戦略性の需要の高まり

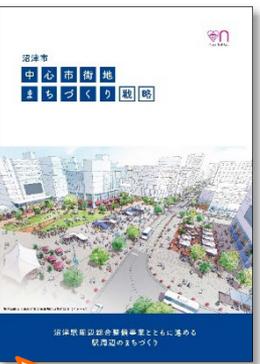
神戸三宮「えきまち空間・税関線」 景観デザインコード

神戸市
(149.8万人)

前橋市
(33.0万人)



まちづくりの方向性	エコ・エコトリック	コンパクトシティ	ローカルファースト
方向性に基づく方針	1. まちづくりの推進 2. まちづくりの推進 3. まちづくりの推進 4. まちづくりの推進 5. まちづくりの推進 6. まちづくりの推進 7. まちづくりの推進	1. まちづくりの推進 2. まちづくりの推進 3. まちづくりの推進 4. まちづくりの推進 5. まちづくりの推進 6. まちづくりの推進 7. まちづくりの推進	1. まちづくりの推進 2. まちづくりの推進 3. まちづくりの推進 4. まちづくりの推進 5. まちづくりの推進 6. まちづくりの推進 7. まちづくりの推進
ライフスタイルの提案	1. まちづくりの推進 2. まちづくりの推進 3. まちづくりの推進 4. まちづくりの推進 5. まちづくりの推進 6. まちづくりの推進 7. まちづくりの推進	1. まちづくりの推進 2. まちづくりの推進 3. まちづくりの推進 4. まちづくりの推進 5. まちづくりの推進 6. まちづくりの推進 7. まちづくりの推進	1. まちづくりの推進 2. まちづくりの推進 3. まちづくりの推進 4. まちづくりの推進 5. まちづくりの推進 6. まちづくりの推進 7. まちづくりの推進



沼津市
(18.8万人)

「戦略」

ヒト中心の公共空間の創出

■ 周辺地域の公共空間を中心から中心に創出

■ ヒト中心の公共空間を創出するため、周辺地域の公共空間を創出

「戦略」

拠点機能の立地促進

■ 拠点機能の立地促進

■ 拠点機能の立地促進



公共事業・公民連携を伴うまちづくりで、地域のビジョンやデザイン戦略の策定事例が増加

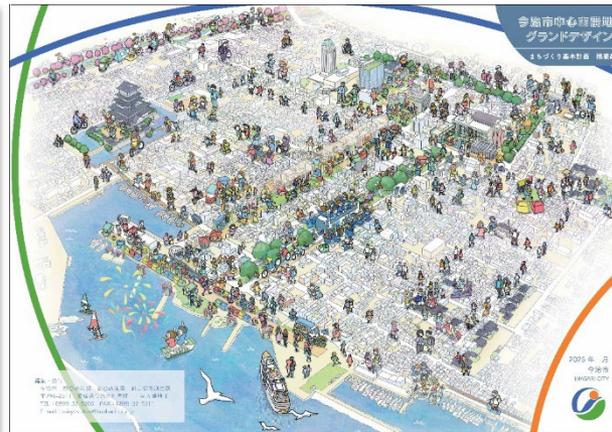
出典：神戸市都市三宮デザイン調整会議「神戸三宮「えきまち空間」・税関線 景観デザインコード」（2022.6）
 沼津市「沼津市中心市街地まちづくり戦略」（2020.3）、「沼津市公共空間再編整備計画」「沼津市都市空間デザインガイドライン」（2022.6）
 前橋市「前橋市アーバンデザイン」（2019.9）

(共創的なプロセスによる) まちづくり構想/デザイン戦略業務の増加

- 盛岡市中心市街地デザイン戦略 (2024-現在、盛岡市)
- 双葉町駅東地区まちづくり構想 (2024-現在、双葉町)
- 今治市蒼社川下流域将来像検討 (2023-2024、愛媛県)
- JR伊予市駅周辺デザイン (2022-現在、伊予市)
- **今治市中心市街地まちづくり計画 (2022-現在、今治市)**
- 隠岐の島町西郷港周辺地区デザイン (2021-、隠岐の島町)
- 肱川かわまちづくり (2020-現在、国土交通省大洲河川国道事務所) ...



盛岡市中心市街地デザイン戦略 (2025.12)



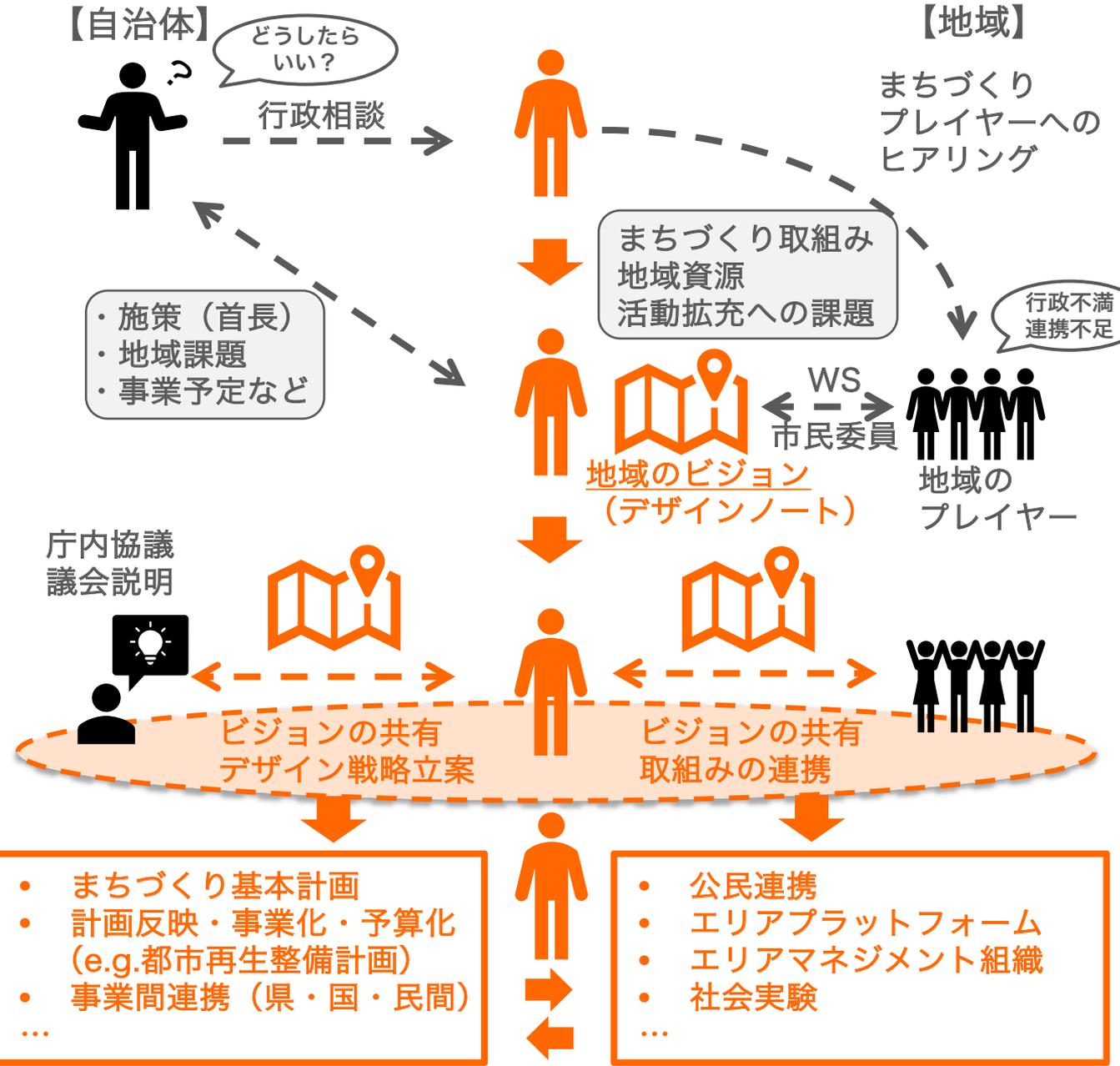
今治市中心市街地グランドデザイン (2025.7)



双葉駅東地区まちづくり基本構想 (2025.3)



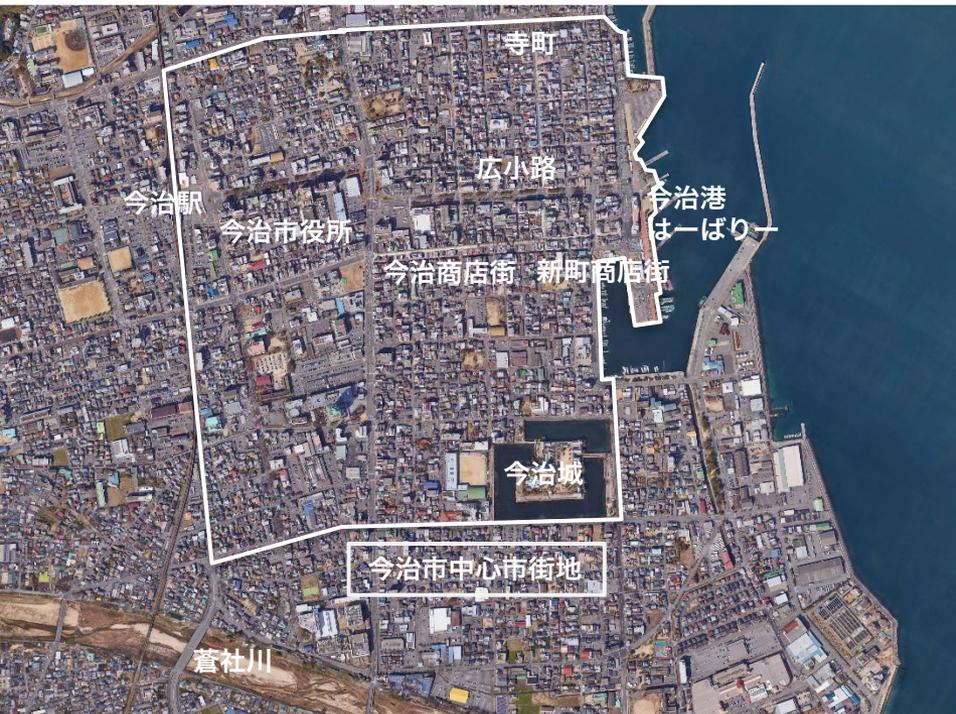
地域のビジョンとデザイン戦略の立て方



ビジョンに基づくインフラ整備

民間事業者・地域住民との連携

今治中心市街地デザイン戦略（愛媛県今治市）



概要

- 今治城の城下町を基盤とし、今治港と駅をつなぐ商業地として発展した今治市中心市街地の再生に向けたプロジェクト。
- 地域資源や地域活動をベースとしたビジョンづくりとその事業化・デザイン検討を担当。

○事業規模／約140ha ○所在地／愛媛県今治市 ○竣工年／—

○事業者／今治市

○設計者／〈統括・計画〉パスコ（2022-2024年度）上條・福島都市設計事務所（2025年度）〈構想・計画〉上條・福島都市設計事務所〈公共施設計画〉都市設計連合〈空間・アクティビティ分析〉スペースシンタクスジャパン〈交通計画〉モビリティデザイン工房〈エリアマネジメント〉臂徹〈社会実験検討〉keel, GK設計

住民参画と公共施策を橋渡しする地域ビジョンの策定

今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）



今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）



今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）



人通りの少なくなった
商店街

今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）



かつてデパートが立地していたまちの中心が
芝生広場に

今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）



今治港と市役所をつなぐ
広小路の交通量も減少

今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）



ロータリーと駐車場が
広がる今治駅前広場

今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）



撮影 北村徹

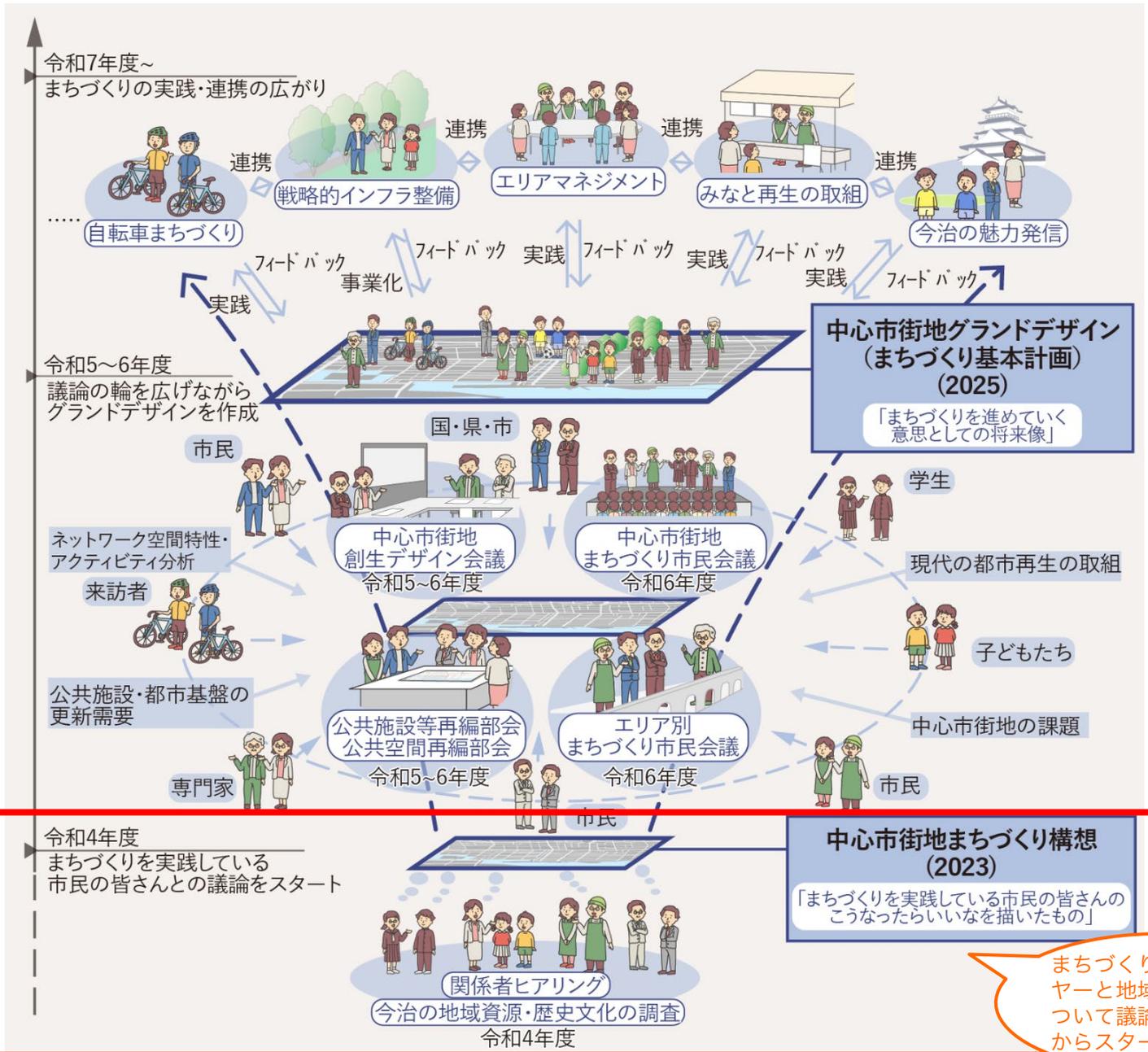
丹下健三氏設計の今治市役所、市民会館、公会堂

今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）



みなと再生の一環で整備された「はーばりー」

都市・地域デザインの実践 今治市中心市街地グランドデザイン（まちづくり基本計画）



まちづくりのプレーヤーと地域の将来像について議論するところからスタート

出典：今治市中心市街地グランドデザイン（2025.7）

今治市中心市街地デザイン戦略 (今治市)



プレヒアリングの様子 (220725)



プレヒアリングの様子 (220915)



プレヒアリングの様子 (220915)



本ヒアリングの様子 (221220)



本ヒアリングの様子 (221220)



本ヒアリングの様子 (221220)



まちづくりのプレイヤーと地域の将来像について議論するところからスタート

中心市街地将来ビジョン (2023.3)

中心市街地における将来ビジョン(案)

今治駅～市役所周辺

- まちづくり方針(案)
 - 中心市街地の重要な交通結節点として強化
 - 現況のサイクリスト関連施設と連携するなど、次世代の交通結節点としての機能を充実
 - 公共施設の再編を契機とする、文化機能など新たな施設機能の付加により、まちなかの賑わい創出に寄与する拠点として再構築
- まちづくりアイデアの例
 - 今治駅前モビリティハブを整備、歩行者空間/自転車歩行者空間を充実する
 - 多様な交通手段で中心市街地を巡ることができるよう、新モビリティの導入、周遊バス、EVバスの運行をする
 - 今治市公会堂を改修し、音響と楽屋環境を改善する
 - 公共施設の再編時には、丹下建築をいかにミュージアムなど今治の文化をいかに活用する

シビックゾーン周辺

- まちづくり方針(案)
 - 公共施設の再編を契機とした施設の集約化により、オープンスペースや歩行者空間の質と量を拡大
 - 子どもを中心とした様々な人がつどい、安心して利用できる新たな拠点を整備を検討
 - Park-PFIなどの官民連携の事業手法の活用を検討し、オープンスペース周辺に住民活動が生まれるような土地利用を戦略的に創出
 - 周辺エリアにぎわい創出に寄与するように施設配置等については、中心市街地全体のネットワークを考慮して検討
 - 県の自転車歩行者環境整備と連携したオープンスペース配置や歩行者空間整備をおこない、街区内外と周辺エリアの連携を強化
- まちづくりアイデアの例
 - 芝っ広場を、空間的にまちに対して開き、気軽に利用できる仕組みとすることで、皆が使いやすい広場にする
 - マルシェの開催に合わせて芝っ広場イベントをおこなうことで、今治港の間に人々の往来が生まれる
 - 街中に子どもを遊ばせながら、親が遊べる場所をつくる
 - 親子で参加できるフェスやイベントを企画、開催する

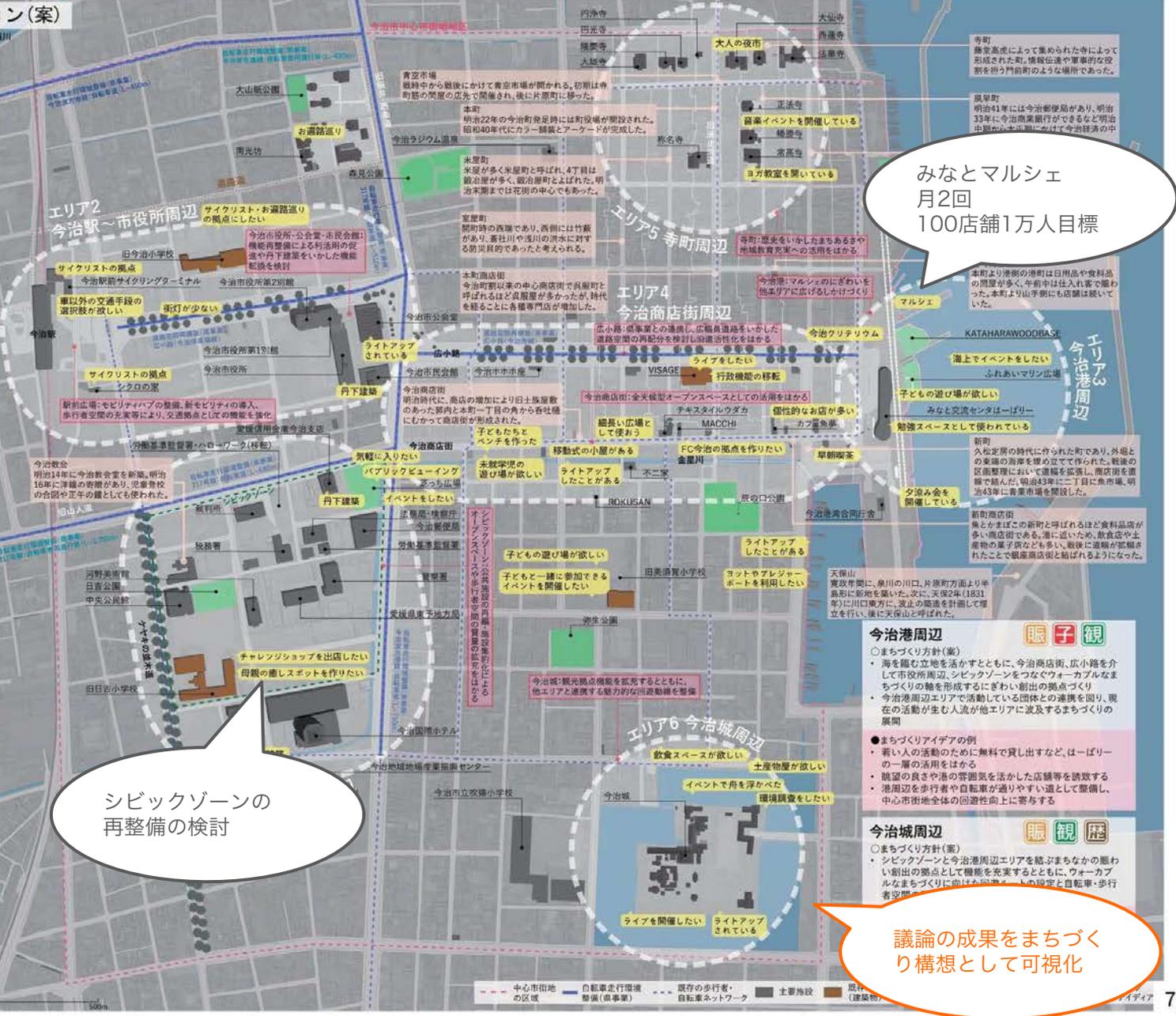
今治商店街周辺

- まちづくり方針(案)
 - 今治港周辺エリアと市役所、シビックゾーンをつなぐ、まちなかの賑わい創出に向けた重要な路線
 - 既存のアーケードを活かした全天候型のオープンスペースとして、未就学児の遊び場やイベント会場としての活用を積極的に行う
 - 今治港のマルシェやイベントの開催時に広小路の賑わいをいかに社会実験を行うなど、中心市街地の賑わい輪の形成に向けた取り組みを実施
 - 広小路の景観の整備事業と連携し、歩きやすく多様な交通モードが共存して賑わいを創出する交通空間整備をおこなう
- まちづくりアイデアの例
 - 商店街を屋根付き広場としてみてWSをおとして整備する
 - 空き地や空き店舗を、未就学児の遊び場や宿泊施設、子どもと一緒に野菜を育てる畑などに活用する
 - 広小路へのキッチンカーの出店、新モビリティの導入にむけた社会実験を計画する

寺町周辺

- まちづくり方針(案)
 - 商業的なまちなかの賑わい創出よりも、今治の歴史や生活文化を伝える「まちなかエリア」としての整備、取組の充実をはかるとともに、地域教育への活用を推進
- まちづくりアイデアの例
 - 日中はヨガ教室、夜は大人の夜市やライブイベントで人が防犯エリアにしていく
 - 寺町や町名の由来や歴史を伝える案内板やサインを整備
 - 案内板やサインを頼りに歴史散策・地域教育をする

交通結節点の強化を図るエリア
まちなかの賑わい向上に寄与するエリア
官民連携により公共空間の再編を図るエリア
子どもを含めた誰もが滞在できるエリア
観光拠点として市内内外の人を呼び込むエリア
歴史・文化を活かした空間形成を図るエリア



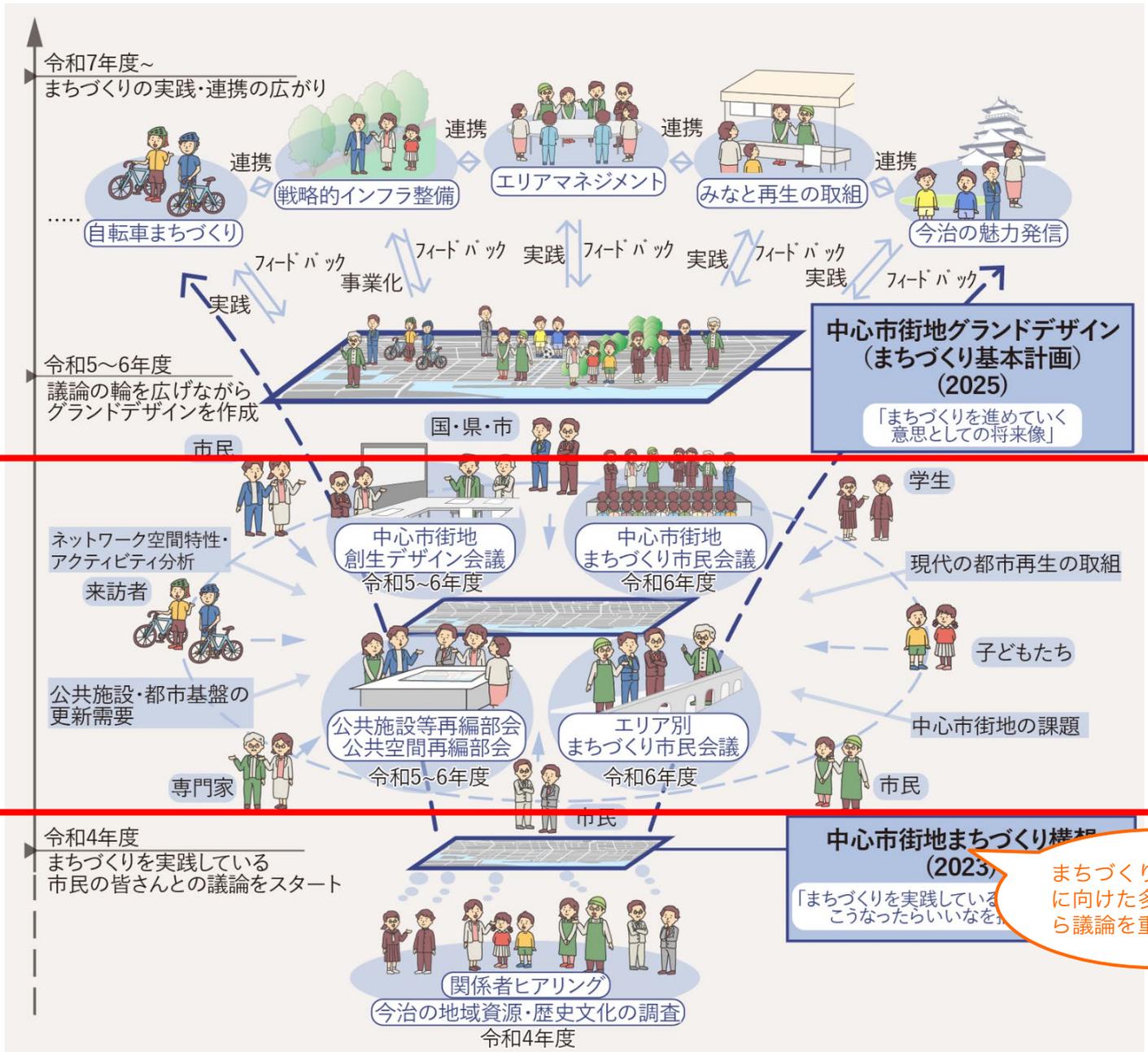
みなとマルシェ
月2回
100店舗1万人目標

シビックゾーンの再整備の検討

議論の成果をまちづくり構想として可視化

見える化するデザイン

都市・地域デザインの実践 今治市中心市街地グランドデザイン（まちづくり基本計画）



まちづくり構想の実現に向けた多様な観点から議論を重ねる

今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）

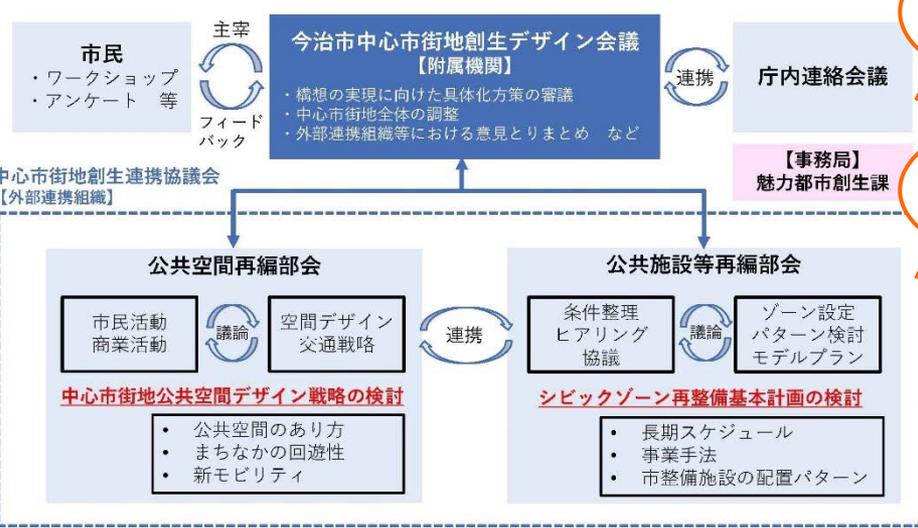


イベント時のにぎわいを日常に広げる

出典 みなとマルシェ+こどもが真ん中フェスタ（2023）

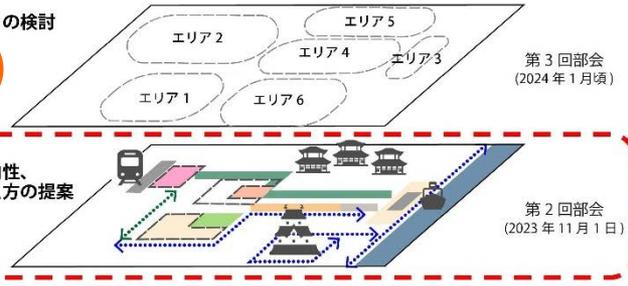
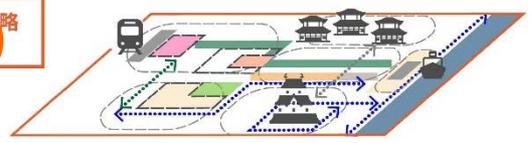
今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）

■検討体制



「今治市中心市街地デザイン会議」を設立（2023年度）

2025年度「今治市中心市街地グランドデザイン」策定



1. 都市基盤整備の方向性、公共空間整備の考え方の提案

○ 『中心市街地公共空間デザイン戦略』は、各都市基盤整備の考え方やエリアマネジメントによる空間利用の考え方を議論し、まちなかの公共空間再編の方向性として示したもの



今治市中心市街地デザイン戦略（今治市）

エリア別の対話

エリアマネジメントへの機運醸成に向けて深堀が必要な地域を対象に、エリアに詳しい方やプレイヤーに対してエリアの特徴等をヒアリングし、まち歩きにより現地の様子を把握

美保町～北浜エリア



まち歩きの様子



美保町の様子

今治城周辺エリア（通町・恵美須町等）



ヒアリングの様子



まち歩きの様子

市民の活動組織の設立に向けた検討

第1回 7/18 実施 (@今治ホホホ座)

- ・港などのイベント時の賑わいを波及させるための商店街、広小路等の活用に関する意見交換



第2回 9/18 実施 (@クロダ)

- ・全国でエリアプラットフォームの立ち上げを支援している弘前大学北原啓司特任教授を招聘
- ・エリアプラットフォームの設立に向けた意見交換



都市基盤整備を契機とするエリアマネジメントの実現に向けた地域との協働

今治市中心市街地デザイン戦略 (今治市)

蒼社川周辺(計画中)

かつての城下町の外堀で、中心市街地の縁を流れる蒼社川は、貴重な自然環境を生かして市民がアクティビティを楽しんだり、ふらっと立ち寄り憩える公共空間として“まちの縁側”のような場所となることを目指す。

複合庁舎(計画中)

市庁舎移転とともにまちに開かれた施設・広場を検討中。

ネウボラ施設(計画中)

子育て世代の相談所として、また屋内外で子どもが遊ぶことのできる場所としてまちに開かれた施設整備を検討中。

広小路(今治停車場線)【提案】

緑陰と賑わいあるまち広場
グリーン・アベニュー

芝っ広場【提案】

日常からイベントまで大勢の人が集う祝祭広場
ドンドビ・フェスプラザ

駅前広場【提案】

しまなみ海道・今治の玄関口に複合機能を備えた交通拠点
しまなみモビリティ・ハブ

サイクリングターミナル

今治市役所

庁舎機能の移転を検討しており、移転後は文化的施設として丹下健三の設計した建築を活かしたリノベーションを検討している。

市役所前広場【提案】

丹下建築と一体で活用を図るまちに開かれた市民広場
タンゲ・アートプラザ

広小路(今治港線)【提案】

緑豊かな環境軸として現市庁舎-港をつなぐシンボルストリート
グリーン・アベニュー

寺町周辺

寺社は音楽等のイベント会場としても活用されており、今治にしかない文化創出の場としても期待される。老朽化した木造家屋や空き家の状況を把握しながら、歴史的な街並みを活かした拠点づくりが求められる。

美保町周辺

古くからの漁師町として、海沿いに多くの船が集まる風景は海外からの観光客にも注目されている。歴史ある石積み防潮堤が残るなど、既存資源を活かしたまちづくりが求められる。

今治城内堀い／金星川(外堀跡)沿い【提案】

海とつながった城下町の足跡を辿る散歩道
ミズベ・ウォーク

今治城周辺

海水を引き込んだ堀は、様々な生き物の貴重な生息環境となっている。堀沿いの散策路を充実させつつ、港まで連続した歩行者空間を形成し、港-城の回遊性を高める。

今治内港沿い【提案】

港から城までをつなぐ海沿いの散歩道
ミズベ・ウォーク

MICE機能の整備(計画中)

海軍関係をはじめ、さまざまな分野での展示会やイベント等を誘致可能な会場を中心市街地内で検討中

はーばりー・今治港周辺

「交通」の港から「交流」の港へ」を基本コンセプトとしたみなと再生事業により整備された。月に2回おこなわれるせとうちみなとマルシェでは、多くの人が集まり賑わいが生まれている。

新町商店街【提案】

新たなプレイヤーのチャレンジの場として活用
ラボ・ストリート

今治商店街【提案】

子どもの遊び場となる屋根付き広場
プレイ・ストリート

見える化するデザイン

ウォークブルに向けた整備計画（広小路）

歴史的文脈の継承

- かつて丹下健三が構想した、都市空間と一体となって市庁舎と港をつなぐ市民広場の思想を、緑豊かな環境軸によって新たなかたちで実現する
- 戦災復興計画で拡幅された20間（約36m）の幅員を、新たな都市機能（防災・環境等）の実現に活かす
- 市民の寄附で植樹されたクスノキを残し、市民の憩う居場所をつくる

防災・環境的な効果の発揮

- 中心市街地は内水氾濫での浸水被害が想定される
- 広小路への雨庭などグリーンインフラの大規模導入による表面排水の浸透により、環境負荷・下水道負担軽減の可能性はある

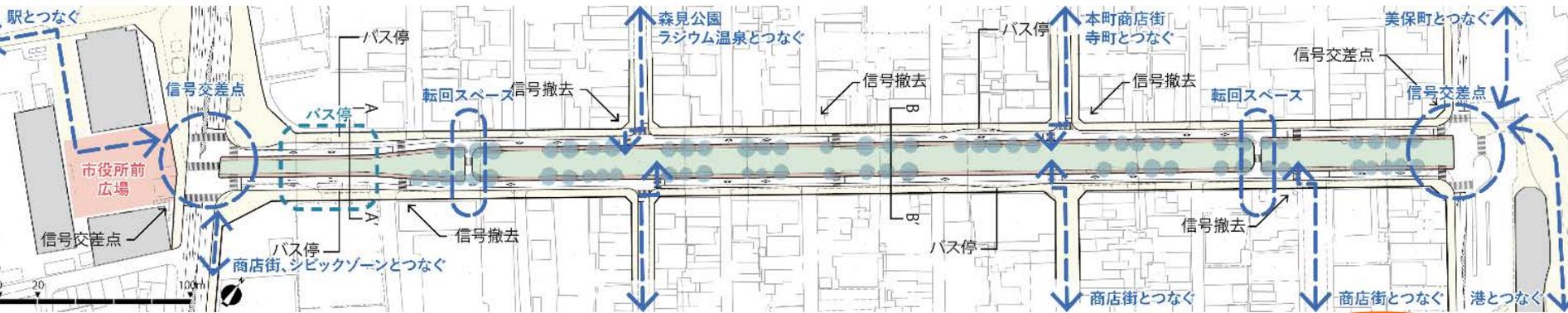


戦災復興都市計画後の様子

ウォークブルに向けた整備計画 (広小路)

まちづくり/交通/環境形成・防災からみた広小路 (中央緑道整備案) の特徴

比較評価		【A】 両側歩道拡幅案	【B】 南側歩道拡幅案	【C】 北側歩道拡幅案	【D】 中央緑道案
B-B'断面図					
まちづくり	シンボル性	○ 広幅員の歩道で広場と港をつなぐ	△ 偏心した道路構成のため、シンボル性を演出する工夫が必要	△ 偏心した道路構成のため、シンボル性を維持する工夫が必要	◎ 中央に広幅員の緑道を配置 既存樹木を活かした環境軸を形成し、広場と港をつなぐ
	活動・活用のしやすさ	◎ 南北それぞれに幅員12mの歩道があり、沿道と一体で活用が可能	○ 南側に幅員18mの広幅員の歩道 商店街と連携した活用が可能	△ 北側に幅員18mの広幅員の歩道 商店街との連携した活用が困難	○ 中央に幅員18mの広幅員の緑道 パブリックスペースとして活用
	沿道・周辺エリアへの波及効果	○ 沿道建物の前の歩道が広くなり、活動が展開すれば波及効果期待できる	○ 南側の沿道建物の前の歩道が広くなり、一体的な活用ができれば商店街への波及効果が期待できる	△ 北側の沿道建物の前の歩道が広くなり、一体的な活用が難しいため商店街への波及効果が期待できない	△ シンボル空間として活用 沿道建物と車道で分離するため、活用のための工夫が必要
	歴史・思想の継承	○ 既存樹を活かした広幅員の歩道で広場と港をつなぐ	△ 既存樹を活かしているものの、偏心した道路構成により市民広場とは正対しない	△ 既存樹を活かしているものの、偏心した道路構成により市民広場と正対しない	◎ 既存樹を活かした緑地帯 (広場) で市民広場と港をつなぐ
交通	安全性/交差点処理	○ 歩車道境界に緑の境界 交差点がコンパクトになる	○ 南側の広幅員歩道で安全性確保 交差点がコンパクトになる	○ 北側の広幅員歩道で安全性確保 交差点がコンパクトになる	△ 交差点が大きくなる 南北に直通する車は迂回が必要
	自転車走行環境	○ 車道両側に自転車道を確保	△ 自転車レーンを確保可能	△ 自転車レーンを確保可能	◎ 緑地帯外側に自転車道を確保 B、C同様自転車レーンも可能
環境形成・防災	グリーンインフラ	○ 幅員12mの歩道に分かれて設置 通行・滞留機能との両立が必要	○ 幅員18mの南側歩道にまとめて設置、通行・滞留機能との両立が必要	○ 幅員18mの北側歩道にまとめて設置、通行・滞留機能との両立が必要	◎ 幅員18mの緑道内にまとめて設置、歩道とは別で大規模なグリーンインフラの導入が可能
	緊急輸送道路	◎ 車道が中央部に位置し建物との離隔が取れるため、建物倒壊時にも機能が維持できる可能性が高い	△ 道路構成の偏心により車道と北側の建物との離隔がとりづらく、建物倒壊時の機能維持が懸念	△ 道路構成の偏心により車道と南側の建物との離隔がとりづらく、建物倒壊時の機能維持が懸念	○ 車道が沿道建物に寄るが、緑道の設次第で建物倒壊時の機能維持が可能



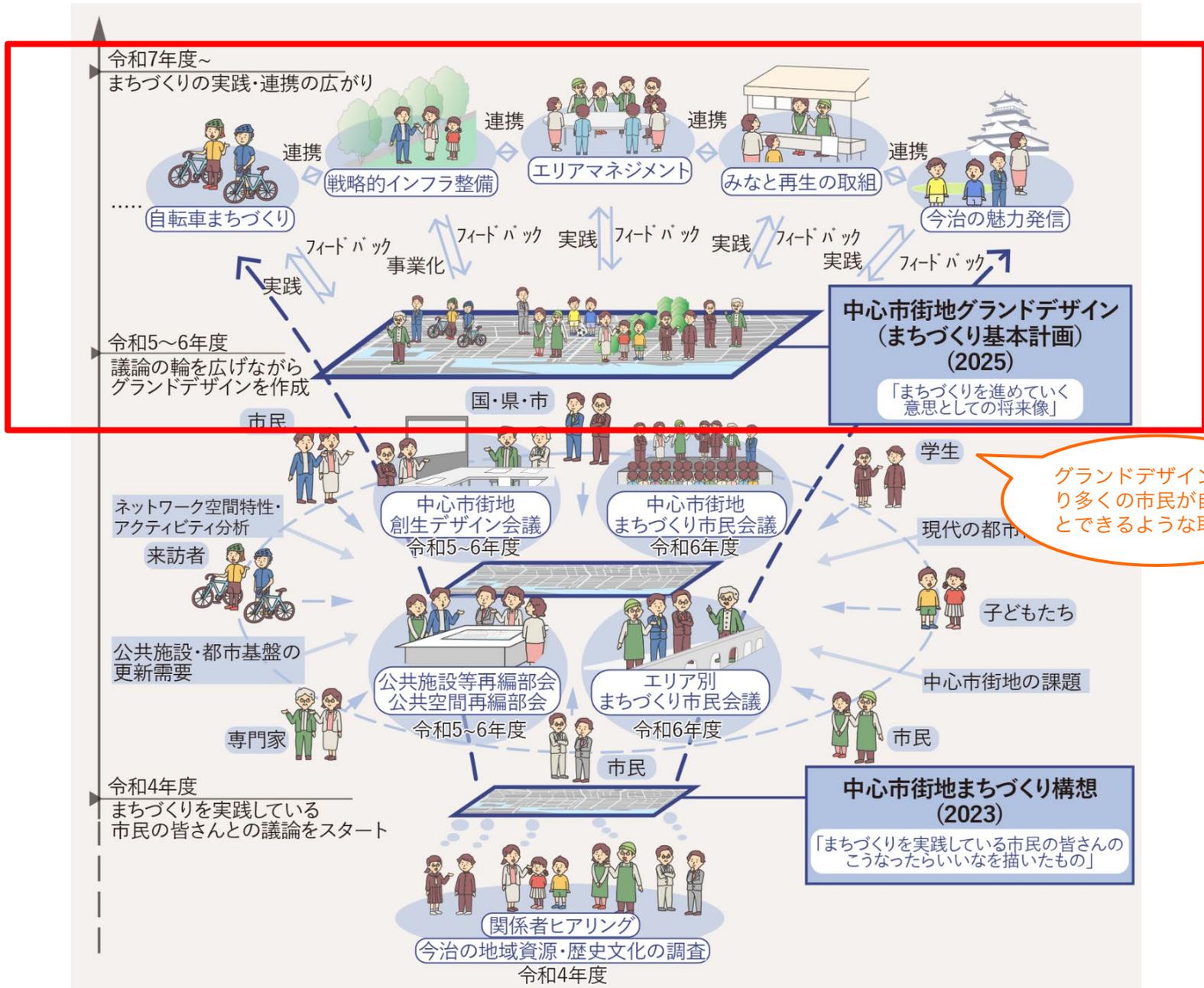
【D】 中央緑道案における計画平面図

■気持ちがあがるデザイン

街路自体が都市環境として価値をもつような計画を提案

出典：今治市中心市街地ランドデザイン (2025.7)

都市・地域デザインの実践 今治市中心市街地グランドデザイン（まちづくり基本計画）



グランドデザインをより多くの市民が自分事とできるような取組み

出典：今治市中心市街地グランドデザイン（2025.7）



まちの将来像と自分の人生を重ねていく市民フォーラム

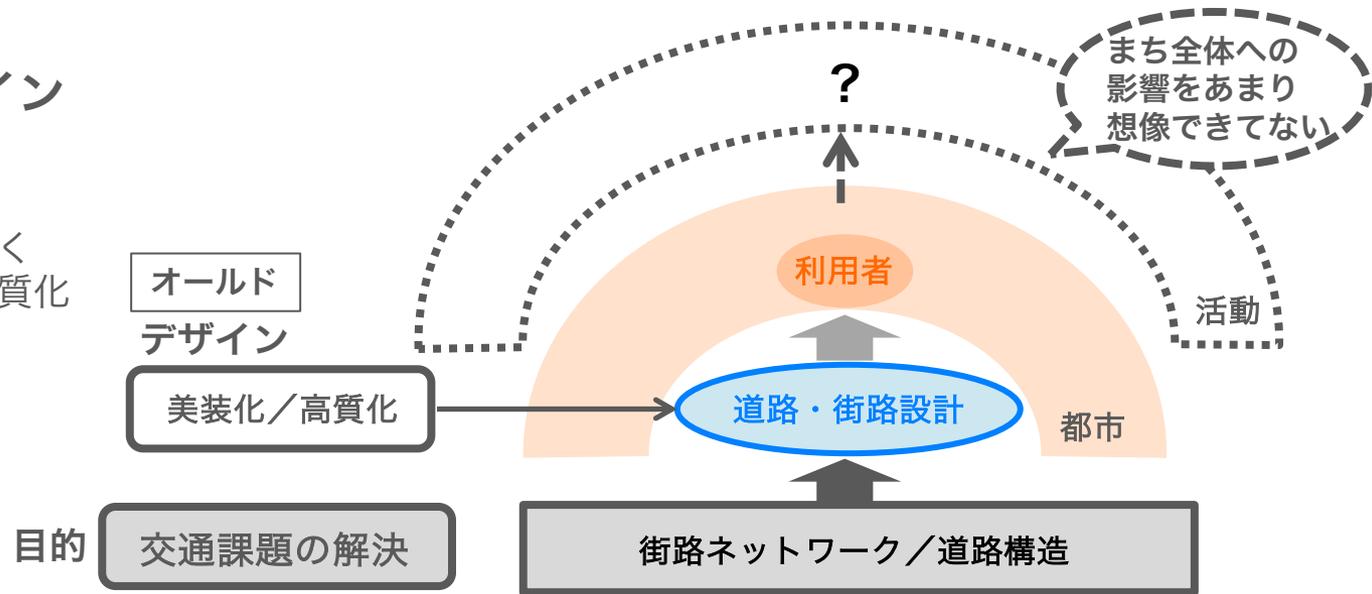


グランドデザインをより多くの市民が自分事とできるような取り組み

■ 関わりしるを生むデザイン

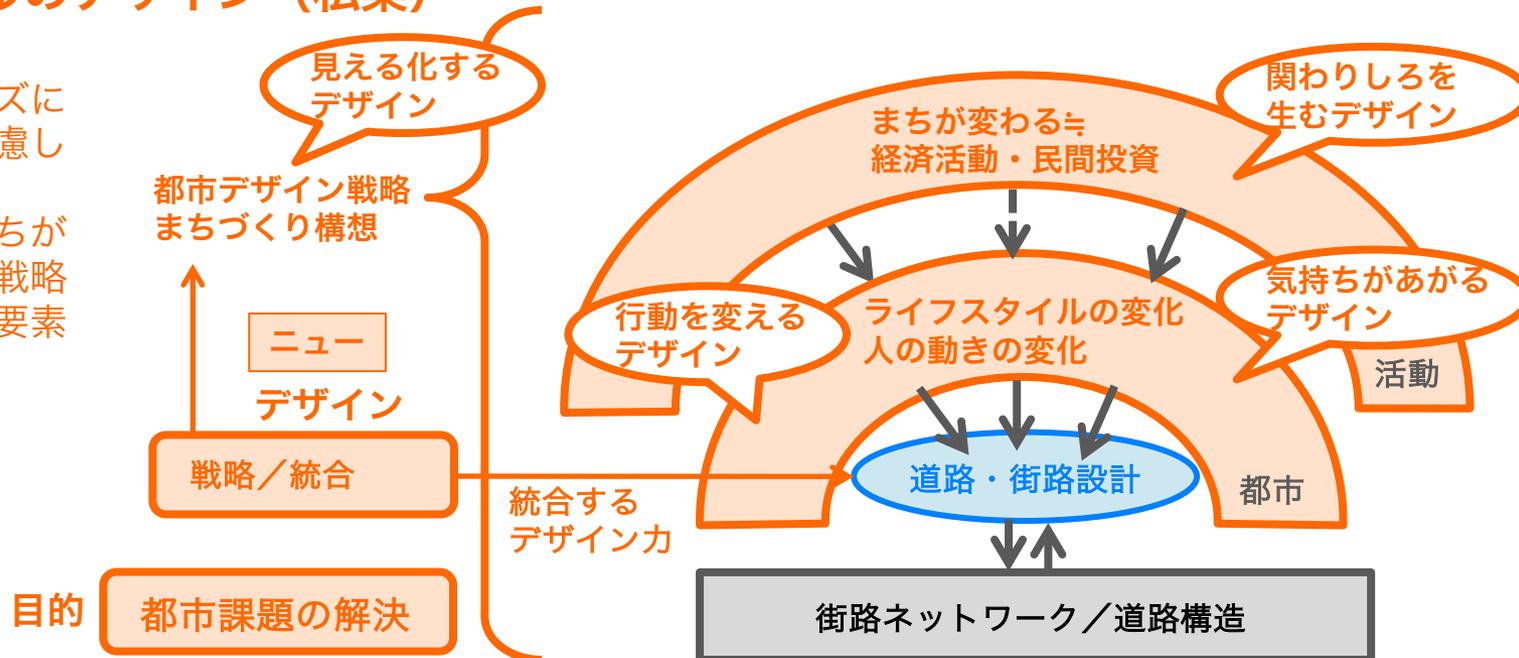
■交通事業でのデザイン

- 空間を分離する
- 車両をスムーズに
- 人は限られた空間を歩く
- デザイン=美装化・高質化



■ウォークブルのデザイン (私案)

- 空間を混ぜる
- 歩行をスムーズに
- 車両が人に遠慮して走る
- デザイン=まちが変わるための戦略策定+多様な要素の統合



ウォークアブルの先進事例を見ても、マインドセット（考え方）が更新されていない。。



■見える化するデザイン

思いの見える化／空間的可能性の可視化／関係性の見える化／地域の現状の把握

→見える化することでプロセスの中で将来像が循環し、多様な意見にもまれたものになる

⇔**x意味不明デザイン**：色んなモノ、コトとの関係性が見えづらい

■気持ちがあがるデザイン

大変なまちづくりを推進するため、頑張る人のモチベーションをあげるデザイン、

→自分の今や暮らしと地続きだけど、魅力的な将来像、民間投資への影響

⇔**x言い訳デザイン**：個々の理屈はわかるけど結果魅力的ではない

■行動を変えるデザイン

e.g.街路デザイン（大事なものは舗装の㎡単価ではなく、人の移動の自由度の印象）

⇔**xお化粧デザイン**：デザインを行動変容の手段ではなく、趣味だと思ってる

■関わりしるを生むデザイン

e.g.空間デザイン、アフォーダンス、プロセス、エリアマネジメント

⇔**xぼっちデザイン**：独りよがりて人の輪が広がっていかない

↓

スムーズに車が走れて、事故がおきなくて、クレームがこなくても人の気持ちが動いて、行動、生活が変わって、経済活動や民間投資につながらなかつたら、公共投資が無駄に。

必要なのは短絡的な拡幅や美装化ではなく、**密な対話にもとづく戦略性と実装化**